

## 宗教や縁起にも特に興味はございませんが……

「縁起を担ぐ」。この言葉を初めて人から聞いた。昨年末、仏教に詳しい方と話をする機会があり、その方が日頃から使用していた物を、新しいものに買い替えた時に新年から「縁起を担いで使うことにする」と発言された。本やTVドラマではよく聞く言葉であったが実際、人さまの口から出たこの単語を聞いた時は正直言って異次元の外国語に聞こえ、本当に使う人がいるのかという驚きとともに、自分がどの様に考えるべきか、またどの様に頭の中を整理すべきかで悩んでしまった。で、あなたは宗教を信じていますか？

以前から宗教には「うそ」を感じることもある、子供たちの七五三、ひなまつり、七夕をやらないのはもとも宗教感がないからか、それとも単純に興味がないからか。月命日のお参りに坊さんがチーンと鳴らしただけでお布施を持って帰って行ったのを風邪をひいて寝込んでいたおばあちゃんがしつかり見ていたとか、お寺が古くなったので金を出させて改築、ついでに国産の最高級車まで買ったとか、お通夜に使うまかない所の使用料金を別途請求された、などという話はよく聞いたことがあ

る。

25年ほど前に初めてプロテスタントのお葬式に参列することになった。牧師さんが言われた言葉を今でも鮮明に覚えている。「死は恐ろしいものではない、死は生から継続していることです」。これまたウソもウソ、大ウソかもしれないがこの宗教心の薄い自分の宗教感を変えるのは十分な説教であった。

仏教では死んだら「はいおしまい」という感じがするし、事実よく聞く「仏ほつとけ、神かまうな」言葉から先人達の「日本の宗教感を感じることもある。確かにキリスト教よりも仏教の方がより身近にあり、良くも悪くも多くの行事を通じて仏教のいやらしさに接する機会から判断するのだから仕方がないことかもしれない。

子供たちがグランパと呼ぶ日系2世のヘリーは米国・ユタ州で生まれた、そう、あのケント・デリカットさんで有名なモルモン教の里でもある。ヘリーと日系1世である両親は自然な形でモルモン信者になったが、

## 担ぎ続けて腰痛にならない？

Vol.24



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

## オレにも言わせる!

北海道長沼発  
ヒール宮井の憎まれ口通信

族がキヤソリック教会の信者であったので、金銭的な負担はなかった。

彼のことは改めて書くが、生まれ時からの人種偏見、弁護士試験の2週間前にパールハーバーで州兵を強制除隊、その後のヨーロッパ戦線、東京裁判、彼の奥さんの闘病、その金銭的な工面のための仕事など壮絶な人生を送った彼には「宗教の違い」が理解できたのかもしれない。

キヤソリックは20歳の時に違いを経験した。オーストラリアにいた農場夫妻の宗教は英国教会の信者で外から見れば英国教会もキヤソリックから派生したお仲間なのに「キヤソリックは教会に寄付ばかりして怠け者ばかりだ」と言う。彼らの息子がキヤソリックの女性と結婚することになった時は、なぜか私に「まずいよな」なんて相談されたこともあった。確かにキヤソリックの多い国とプロテスタントの多い国と比べた時、前者の方が明らかに金銭的には貧しい国が多く、世界地図を見ても南の国は貧しくキヤソリック、北の国は豊かなプロテスタントが多いのはなぜだろう。しかし米国の場合、貧しい南部にはプロテスタントが多く、ポストンなどの北東部には、キヤソリックが多い、単純に移民の出身国の違いだろうか。ある方に「良い宗教とは？」と問うと、歴史があり古

い宗教であることだという答えが返ってきた。そうかあ、道庁教育部に行って休眠中の宗教法人を調べ、金を出させて教祖様になり、毎日金髪・ブルーアイに囲まれる人生は可能だろうか。

## 民族服である着物も環境の変化に取り残された

ところで農業と「縁起を担ぐ」には何か関係あるのかって？

年末に北海道の10名ほどの生産者に「縁起を担いで〃営農をする」と言う日本語はどう思うか聞いてみた。全員が縁起を担いで何かをして営農をすることはないと明言した。もちろん私も同じである。

「縁起を担ぐ」のは昨日までの所業、悪行を忘れてすべてをリセットするという意味のほかに、自分は愚かだ、怠け者、本年も同じ過ちを犯す予定であるということも考えられる。普通マトモな生産者であれば、何かの間違ひがあり原因が分かれば同じ過ちを起さそうと考えない。ゆえに「縁起を担いで〃営農をするなど」と愚かな日本語は出てこないのである。

自分の場合で言っても、大体が米国中西部のまともな農家のパクリであり、営農する際、最新の考え方ですべて行なっているわけではな

とは徹底的に排除することは守っている。酒、たばこ、コーヒー、特にギャンブルは**営農自体がギャンブル**なのに、それにも増してバクチはおかしいと思わないのであろうか。

もつとも、人は今年も同じ過ちを犯し、その姿を子供たちに受け継がれることになるのは仕方ないかもしれない。そしてそれを許すのが日本文化ともいえる。

日本文化の象徴と言えば着物があ

る、私は着物を持っていなし、購入予定もない。新年のTVでは昭和50年頃をピークに現在ではその時の4分の1まで販売が落ち込み、その理由としては日本人のライフスタイルに合わなく、着る機会がなくなったと報じていた。当然である。雪のない地域であれば着物で物理的に歩くと言いうことができるが、積雪のある北海道ではやはり無謀な挑戦である。念のため、私は着物が嫌いだと言っているのではない。その様な着物を着る機会を減らした原因を作ったのは誰なのか？ 答えは明瞭、簡単、あなた自身である。だからといって北海道の生産者が悪者にされる理由もなければ、そう仕向けているわけでもない。その様な環境の変化に対応できない文化は事業仕分けの対象になるだけである。

ある人は着物を着て浅草を歩いていると、ヨーロッパ人からは“kimono”と呼ばれ、米国人からは“Oriental”と呼ばれることにカチンとくると言っていたが、それは間違いである。ヨーロッパ人は着物しか見ていないからそう言うのであって、米国人は姿や人を見るから先ほどのOrientalが出てくるのだ。見る角度と暇の大きさを変えれば、大和民族との戦いに勝った米国の世界感を共有することは教育の問題ではなく、小さいころからの刷り込みの結果だと思ふ。

そういうえば昭和のJALのスッチーは飛行機のトイレで着物に着替えていたなあ。それも無理か、昔の女性と違い今の女性は足が長くて胴が短いので、それにあつたデザインも必要なのかもしれない。そんなサービスがなくなつて今の**JALの凋落**が始まったのかもしれない。

雪のない地域に行くと、日本より強くアジアを感じることがある。それが今の自分にどの様に影響を及ぼしているかは分からないが、所詮、どの宗教を信じ、喜び、悲しみ、何を残し、どの相手と遊び戯れるのも、刹那の世界を漂よっているようで諸行無常であるかもしれないとつくづく思う。そんな歳になつた私は、おねーちゃんを口説くために、縁起を担ぎまくっているのがあつた。